

咸臨丸終焉150周年を迎えて ～サラキ岬に眠る歴史資産を未来へ繋ぐ…～

木古内町長 鈴木 慎也



日本初の太平洋横断を成し遂げた栄光の「咸臨丸」が、このサラキ岬沖に座礁沈没して150年の節目を迎えます。

歴史は1871年9月に、物資輸送を担っていた咸臨丸が小樽に向かう途中、風にあおられ座礁沈没し、今もこのサラキ岬沖に眠っています。

この歴史遺産を町のシンボルとして位置付けようと、町民有志が2004年に「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」を立ち上げました。

この地は、かつて石と砂しかないようなところでしたが、サラキ岬に咸臨丸が眠っているという歴史的価値が極めて高い場所として、その価値を全国に発信しました。

年間2万人が訪れ賑わいを見せる観光地として、生まれかわることができたのは、夢みる会の会員の皆さまの熱意と、町を愛する誇りであります。

その功績に心から感謝と敬意を表すところです。

サラキ岬は、80種5万球のチューリップが咲き誇り5月のGWには、子どもからお年寄りまで沢山のご家族連れの観光客が訪れ、満開のチューリップに笑顔があふれる公園となりました。

チューリップの植栽にも歴史があります。咸臨丸は江戸幕府からの依頼を受けた当時、日本の友好国であったオランダのキンデルダイクで建造された船です。オランダと言えば風車やチューリップの映像が目につかびます。そのオランダから寄贈されたチューリップの球根を、夢みる会の皆さまが大切に育てました。

今ではサラキ岬チューリップ公園と呼ばれ、咸臨丸のモニュメントや風車のレプリカと公園を彩る3つの要素としてチューリップがその存在感を表しています。

町の貴重な観光スポットとして、ここまでの公園を作り上げ、町の夏のお祭り「咸臨丸まつり」の開催に至った経緯に関しても、夢みる会の皆さまのご尽力の賜です。

またサラキ岬は今、星空がきれいなスポットとして道内外から注目をされています。夜の9時を過ぎ、街灯が消えたらそこは一面星空のステージ。まばゆいばかりの星空の光が、あたり一面を照らし、幻想的な世界に包み込みます。そしてその前方の海には、幕末の動乱期に近代日本を作ったと言われる、勝海舟や福沢諭吉を乗せて太平洋を渡った軍艦「咸臨丸」が眠っているという、とても素敵なストーリーが今、密かに話題になっています。

町として夢みる会の皆さまとともに、この歴史遺産と花観光、そして自然が織りなす幻想的な風景を、町の観光資源として注目が集まるような取り組みを進めてまいります。

咸臨丸がその数奇な運命を閉じて150年を迎えるにあたり、咸臨丸に携わった全ての方々に哀悼の意を表するとともに、咸臨丸をプラットホームとして、地域の活性化に取り組み、全国各地で咸臨丸を題材に様々な事業が行われています。

私たちは、これから生まれてくる次の世代に、「咸臨丸」という軍艦が、どこで生まれ、何を夢見て、そしてどのような最期を迎えたのか、その存在をしっかりと語り継いでいく責任があります。

咸臨とは、「志で感じ合い・一致協力して互いに悦び・親しみ・正しい道を行き・志を行う」を意味します。

この「咸臨の志」を私たちはしっかりと未来へ繋いでまいります。